

番号	質問・意見の内容	市の回答
1	この深沢地区の開発、整備事業の計画には、そもそも村岡新駅は最初から一体となっていたのですか。	新駅の構想は以前からありましたが、深沢地区のまちづくりは新駅が無かったとしても進めていく計画でした。この度、新駅の設置について合意に至ることが出来たため、新駅が設置される藤沢市村岡地区と深沢地区の一体のまちづくりを進めることになりました。
2	資料の20ページのイラストに水辺のようなものが描かれていますが、こういった施設を作るのですか。	現在土地利用計画案の中で調整池の整備を計画しています。これは、この深沢地区に降った雨を一時的に貯留するものですが、ただの貯め池にせず、親水空間を作ってまちの賑わいや憩いの場にしたいと思い、現在計画を進めています。このイメージについては昨年度末に作成した、深沢地区のまちづくりガイドラインの基本方針の中で示したものです。
3	湘南深沢駅でサッカーチームが資料を配っており、スタジアムが湘南深沢駅のすぐ近くに来ると話がありました。今回の説明には記載がありませんが、このスタジアムとの関係はどうなっていますか。	現在進んでいるものは、スタジアムではなくサッカーグラウンドの計画と聞いています。こちらについては、深沢地区の土地区画整理事業における工事が令和6年度から始まるため、それまでの暫定的な利用として進めているものです。今回の土地区画整理事業後のまちづくりとは別の話です。
4	人工芝で整備することが話題になっていましたが、こちらはどうなっていますか。	説明資料の中で土地の所有状況をお見せしましたが、サッカーグラウンドを整備予定の土地はJR東日本の所有地です。この土地を、サッカーグラウンドを計画している民間事業者が借り受けて、事業を行うものです。市ではこういった土地利用に対し、市の特定土地利用条例に基づき必要な助言を行っているため、ある程度の内容は把握していますが、市が主催して行う事業ではないため、細かい事業計画といった一定以上の詳細は、市からはお話できません。
5	新駅とまちづくりが一体とのお話ですが、駅の合意が新聞に出て唐突だと感じました。鎌倉市としては新駅は積極的に誘致を進めていた立場なのですか。	駅ができることとまちの価値が変わってくるため、市としては駅を含むまちづくりを進めたいと考えていましたが、市外に設置される駅に過度な負担はできないと考えてきました。今回、この折り合いがついたと市では考えています。また、これまでの新駅に関する経緯についてですが、市の都市マスタープランでは以前から新駅について記載しています。村岡地区との一体のまちづくりについて、平成29年度に深沢地区の土地区画整理事業を単独で進める場合と、村岡地区と合わせた両地区一体施行の両方を検討し、経済効果や事業費を検討した中で、新駅が深沢のポテンシャルアップにもつながることも加味し、村岡地区との一体施行が望ましいという結論に至っています。平成30年12月には、両地区一体でまちづくりを進めることや、新駅の整備について鎌倉市、藤沢市、神奈川県で、JR東日本に対して新駅設置を依頼する旨の合意を結んでいます。そういったことを経ながら、新駅設置や駅の負担割合の報道にあるような、鎌倉市、藤沢市、神奈川県、JR東日本での合意に至りながら、まちづくりを進めることになっています。新駅の新聞報道を急に感じられたかもしれませんが、これまでの経緯においても、以前から報道がされてきております。
6	新駅は、近接する武田薬品工業に相当なメリットがあると思うが、こういった周辺の企業が駅にお金を出すことはあるのでしょうか。	まちづくりの資金計画の中にも周辺企業の出資を組み込んでいるかという意味合いでしたら、現状は組み込んでいませんが、もしも周辺の企業として新駅に対し資金を出すといったことがあれば、もちろんありがたいと考えています。
7	市役所移転に反対や納得していないという声を多く聞いています。市は今までずっと説明してきたといいますが、説明や広報が足りないのではないのでしょうか。	市として、多くの方々にまちづくりをご理解いただきたいと考えています。広報活動について、直近では、広報かまくら3月15日号にまちづくりについて掲載をしています。また、自治町内会連合会役員会のお時間をいただき、深沢地区のまちづくりの説明をしております。こういった活動をしながら、なるべく皆様にご理解いただけるように周知を図っていきたくと考えています。
8	どうして藤沢市にできる駅なのに、鎌倉が同じ負担なののでしょうか。	新駅の負担割合についてですが、平成29年度に新駅が出来たことで得られる効果について検証を行っています。新駅がもたらす目的地までの所要時間の短縮や、交通費の減少等といった効果を検証し、その結果、鎌倉市、藤沢市で得られるメリットがほぼ同等だったことから、同額の負担割合と考えています。

9	<p>まちづくりには多額のお金がかかりますが、他にお金を使うべきではないでしょうか。</p> <p>市の施設や道路など、市民が暮らすところに投資し、もっと使いやすくすることにお金を使うべきではないでしょうか。</p>	<p>深沢のまちづくりが完成すると年間約16億円の税収が増加すると見込んでいます。これらの理由からこのまちづくりは、鎌倉の未来に向けた投資であると捉えています。税収の増加が、指摘いただいた市の設備にも反映されるように、まちづくりを着実に進めていきたいと考えています。</p>
10	<p>新駅のメリットが鎌倉と藤沢で同等と言っていますが、本当でしょうか。資料を公開して欲しいです。</p>	<p>説明会には資料をご用意していませんが、市役所の行政資料コーナーに平成29年度の検討結果を配架しており、自由に閲覧できるようになっています。</p> <p>同等な効果については、新たに駅ができるメリットを計算する手法がいくつかあります。例えば、もともと大船駅や藤沢駅へバスで出ていた人が、歩いて新駅に行くとバス代や時間がかからなくなります。そういった効果を分単位で計算し、そのメリット等をお金に換算していく手法です。こういった検証を行った結果、確かに新駅は藤沢市にできますが、結果的に藤沢市、鎌倉市ともに同等の効果が得られるという結論に至っております。</p>
11	<p>鎌倉市民は、新駅まで2キロも距離があるのにどうやって行くのでしょうか。</p>	<p>新駅から深沢地区までの距離で言いますと、新駅から柏尾川のところまでは約400m、そこから湘南モノレール湘南深沢駅までさらに約700mで、計約1.1kmです。</p> <p>地域によっては駅まで歩くには遠い場所もありますが、バス等の新しい交通網を整備し、新駅まで行く負担を少なくできればと考えています。</p>
12	<p>新駅までバスに乗るのであれば、先ほど説明にあった負担の軽減にならないのではないですか。</p>	<p>新駅が出来て、新駅までバスに乗る方もいますが、新駅ができることによって徒歩で駅まで行ける方も生まれます。そういった方を含め、新駅のメリットを計算しています。</p>
13	<p>深沢のまちづくりは非常にいいタイミングだと思っています。深沢だけでなく、笛田や鎌倉山、腰越、寺分、梶原、こういった地域は、今は大船駅か藤沢駅にしか出られません。私は車で移動することが多くありますが、駅前には混んでいます。それが分散されることになるので、鎌倉市にもメリットがあると感じています。</p> <p>反対意見を言う方の理由がよくわかりません。深沢のまちづくりについて反対をするのであれば、我々の深沢をどうしていくべきか、しっかり代案を出してもらいたいです。</p> <p>深沢のまちを若い人たちが集まる場所にしてほしいです。鎌倉市は老年寄りが多いまちになりつつあります。極力若い人を呼び込むようなまちづくりをやってほしいです。ウェルネスといったコンセプトもありますが、若者が喜んでくるようなまちづくりをしてもらいたいです。</p>	<p>若い方々ももちろんのこと、どなたでも過ごしやすいまちづくりを進めていきたいと考えています。土地利用計画案で示した、業務施設の街区に企業が立地することで、鎌倉市民の雇用を支える場所として、このまちが機能していくことを期待しています。多くの企業が立地する、活気にあふれたまちづくりを進めたいと考えております。</p>
14	<p>鎌倉市の将来を考えると若い子育て世代の家族に住んでもらえるように、ここで子供を育てたいという魅力を持つまちであるべきだと考えています。</p> <p>安心して小さい子供の子育てができる環境や、市内には大きな公園は少ないので、のびのびと広い場所で遊んだりできる環境など、そういった点に配慮したまち、場所にしてもらいたいです。</p> <p>そういう視点については、どういったことを考えていますか。</p>	<p>若い子育て世代に対し魅力を持つまちづくりについてですが、いつコロナが収束するか不透明であり皆様方もご苦労が絶えない社会状況であると市も感じています。</p> <p>このまちづくりは、コロナ禍を乗り越え、コロナが収束した時にふさわしいまちづくりについて鎌倉から発信できるよう議論を進めています。</p> <p>住まいや働き方の考え方が大きく変わってきており、これまでの東京一極集中から、住まいや働く場所の範囲が広がってきています。横浜や東京に働きに出て、鎌倉には寝に帰ってくるばかりだった人も、住まいを見直して、深沢での住まいも楽しみつつ、働く場所としての鎌倉も感じてもらえる、そういったことにもチャレンジをしていきたいと考えています。</p> <p>資料のイラストでは市長の想いも表現しており、イラストでもっと緑のあふれるまちや自然に触れられるまちづくりを表現してほしいとの要望がありました。</p> <p>こういったまちの姿について、これからも市民と共有しながら膨らませたいと考えています。</p>

15	<p>深沢地域に引っ越してきて5年たち、深沢のまちがこれから計画されるという話を聞いて、良いまちになってほしいと賛成しています。反対の方もいらっしゃると思いますが、温かく見守ってほしいと思います。最近自然災害が多いと思います。特に洪水、川の氾濫のリスクをどう考えているのでしょうか。</p>	<p>深沢地区を災害にどう強いまちにしていくか、ということに関してはまちづくりガイドラインでも検討しています。ここで一番身近な災害を考えると、大雨の時の柏尾川の浸水が挙げられると思います。深沢地区の計画につきましては、年超過確率100分の1規模の降水量である、24時間で302ミリの雨が降った場合にも耐えられる地盤の高さで造成を計画しています。またこの地区から水が流れていく心配については、調整池をつくり、地区内の雨が直接柏尾川に流れていかないような計画を検討しています。また、それ以外の災害についても、本庁舎が移転し、深沢地区は防災拠点の位置付けにもなりますので、災害にも対応できる形で検討していきたいと思っています。</p>
16	<p>新駅の設置や深沢の開発が、深沢だけでなく市全体としてどのくらい効果があるか、鎌倉市全体を分かる形で説明をしてください。</p>	<p>新駅を電車で乗り降りをするためだけの出入口と捉えてしまうと、駅を利用しない方にとっては、関係のないものと感じてしまいがちと思いますが、市では東海道本線の新駅を、乗り降りの出入口というだけでなく、新しくつくる深沢のまちのポテンシャルを大きく底上げするものと捉えています。今後深沢の新しいまちづくりが大きく育っていくとどうなるかということを知りやすく申し上げると、まちが概ね立ち上がりきった後は、年間で約16億円、市税の収入が増加すると試算しています。当然、この16億円は新しいまちだけに使用されるわけではなく、鎌倉市全域の底上げに使っていくものです。鎌倉市全域の高齢者福祉、子育て、教育、道路整備、そういったものに還元することになります。端的に申しますと、新駅は深沢のまちづくりのポテンシャルを上げ、深沢の新しいまちづくりや鎌倉市全体の持続可能な都市経営を可能にするものであると考えています。このことをしっかり市民の方に説明することが責務だと考えています。</p>
17	<p>湘南モノレールの駅にエレベーターが無く、母が階段から落ちてひどいけがをしたことがあります。小さいお子さんを連れて行く方も、バギーで行けず不便です。バリアフリーの工事は、この計画が始まると同時にやると聞いていて、それでは遅いと思っています。これはモノレールの会社に言った方が良いのかもしれませんが、湘南モノレールの駅にエレベーターがついて乗りやすい駅になってほしいです。また、現在モノレールは特に朝はとも混雑していて、新駅ができるとそれが緩和されると思います。今後新しい住宅等ができて人が増えることも考えると、将来的に駅は必要だと思いました。</p>	<p>湘南モノレール湘南深沢駅にエレベーターを造る計画はあるという話は聞いていますが、まだ着手出来ていない状況です。湘南モノレールに関しても、このまちづくりに合わせて、乗客が増えること想定されるので、駅舎のホームを1本から2本に増やす話も出ております。ホームとエレベーターのどちらが先になるかはわかりませんが、検討はしている話を聞いています。</p>
18	<p>土地を開発するにあたり、建物の高さ制限はあるのでしょうか。</p>	<p>建物の高さに関して、現在、令和2年度から4年度にかけて、建築物やまち並みの景観ルールを定める、まちづくりガイドラインの策定に向けて検討を進めています。その中で、建築物の高さについてもルールを定めていく考えです。現在、平成25年度に作成したまちづくりガイドラインを見直していく検討を進めています。平成25年度の内容ですと、建物の高さについては31mを上限としているので、今回の検討においてもこれが一つの基準になると考えています。また、まちづくりガイドラインについて、昨年度に基本方針部分を作成し、今後令和3年、4年度は、まちづくりのルールについて策定を進めていきます。それに先立ち、市民の皆様からどういうまちにしたいか、こういったルール付けがいいのではないか、というアイデアの募集を行うこととしており、令和3年5月1日号の広報かまくらや、HPに詳細を記載しています。皆様からの意見を反映させながら、まちづくりガイドラインの作成を進めていきたいと考えています。</p>

19	<p>J Rの土地は、サーカスや、徳洲会スポーツセンター、今度できるサッカー場など、J Rの土地は有効利用していますが、市の土地は、市民が入れるのはスポーツ広場だけです。他はただの空き地で、全部締め切って市民が入れないようになっています。今から3年後の着工まで、広い空き地をただ締め切っているのは住民にとって残念なので、中に入れるようにして、住民が公園として使えるようにできないでしょうか。</p>	<p>市が保有している土地の現在の使い方についてですが、市は大きく分けて3つの土地を所有しています。ご質問いただいた多目的グラウンドは、市の土地を開放しています。深沢地区の北側の細長い市有地部分は、市内の民間保育施設の建て替えの際の仮園舎用地として、土地を有償で貸しているところです。また、モノレール駅に近いところも市の土地であり、徳洲会スポーツセンター、テニスクール、コインパーキングとして暫定的にご利用いただいております。また、収入を得ているところです。そして、南側の土地は、キッチンカーやドッグランの会場として事業を営む方、また流鏝馬の稽古場として活用しております。</p> <p>まだ若干市有地が残っていますが、使用しにくい形の悪い土地であり、現実的に活用が可能なところは全て暫定利用に供している状態です。今後も、事業が始まるまでの間は、地元の賑わいや収入の確保のために、有効に市有地を活用していきたいと考えています。</p>
20	<p>以前、土地の調査をした際に、土壌汚染があったと思いますが、解決されたのでしょうか。</p>	<p>土壌汚染に関して、J Rの工場跡地、市有地は処理が済んでいます。一部、徳洲会スポーツセンターの土地に関しては、すべての調査ができていないので、そこは事業が始まり、更地にした際に改めて調査を実施し処理を行う予定です。また事業用地の西側にお住まいの個人権利者の方々の土地についても、同様の調査を行い、必要であれば処理を行います。</p>
21	<p>まちづくりガイドラインのアイデアを公募しているそうですが、そういった意見募集に関して、情報提供が徹底していないと思います。知らないうちに募集期間が終了していたこともありました。最新のガイドラインに関する意見公募の期間を教えてください。</p> <p>また、徹底した情報発信を行うために、工夫していることはありますか。我々はいつもHPを見るのも大変なので、どうすればよいか、考えを教えてください。</p>	<p>アイデア公募の期間は5月6日から30日間です。</p> <p>これは、鎌倉市のパブリックコメントの条例に準じた取扱いとして行っています。</p> <p>情報発信については、市のHP、広報かまくらで周知しています。意見はHPの他にも、各図書館等に意見公募の用紙を設置し、なるべく多くの方から意見を寄せていただけるように工夫しているところです。</p>